

明治初期の造船技術者に関する一考察

～緒明菊三郎と緒明造船所を中心に～ ■講師：中尾 光一 なかお こういち

2024年12月21日(土) 14:30～16:30

■会場：駒場ファカルティハウス セミナー室

京王井の頭線「駒場東大前」駅下車 東京大学駒場キャンパス内

場所は東大正門の警備員にお聞きください

電話 03-5454-4481 (ファカルティハウス管理室)

対面開催!

非会員の方もお申込なしでご参加いただけます
当日直接会場にお越しください



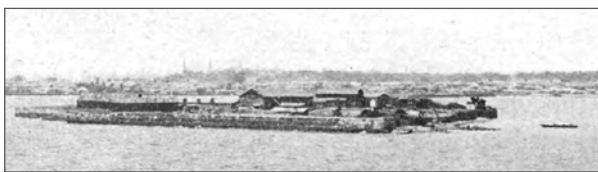
緒明菊三郎 (『海』21号より)



明治36年頃の緒明造船所スケッチ (『少年世界』8巻11号より)

おあき 緒明菊三郎 (1845-1909) はヘダ号の七大工頭・緒明嘉吉 (1802-1872) の息子で、父親の手伝いでヘダ号建造にも関与したとされる造船技術者である。明治16 (1883) 年には共同運輸会社に協力する造修補給の施設として品川第四台場を借り受けて緒明造船所を開き、明治20年代には海運業にも参入、明治38 (1905) 年には木造船としては国内最大の第27 観音丸 (1897トン・全長85m) を自社船として建造するなど、造船・海運では大きな存在になるが、娘婿である緒明圭造 (1867-1938) の代に造船業から撤退したせいとその詳細は明らかではない。

そこで本報告では緒明造船所の建造船や菊三郎の所有船などを調査するとともに、隅田川の一銭蒸汽で儲けたなどの菊三郎の逸話についても検証していきたい。



品川台場の緒明造船所 (『品川台場』より)

■中尾 光一 (なかお こういち) 日本海事史学会会員

1975年大阪府生まれ。花園大学文学部史学科 (近現代史) 卒業。同大学院修士課程修了。現在は花園大学文学部日本史学科助手。

主要論文は、「海軍艦政局創設に関する一考察 ―初代局長伊藤雋吉を中心として―」 (『花園大学文学部紀要』2020年)、「幕末から明治初期における造船技術者に関する一考察 ―緒明菊三郎と緒明造船所を中心として―」 (『花園史学』2023年) など。

例会後、近くの居酒屋で忘年会を開催します!

懇親会 17:00 ~ (例会終了後)

■居酒屋「さわやか」 TEL:03-3481-0638
〒153-0041 東京都目黒区駒場1-27-1

事前申込制 申込締切12月17日(火) 23:59

会場予約の都合上、懇親会は事前のお申込みをお願いいたします。
懇親会費はワリカンです。非会員もご参加いただけます。

こちらのQRコードからお申込みください



日本海事史学会は、海事一般に関する歴史・法律・民俗・水産・考古・船舶・航海・海運など、海事史だけにとどまらずひろく海の人文、社会科学等あらゆる分野に関心を持つ学界や在野の研究者の方々の交流をはかる総合研究の“場”です。

【主な活動】専門学術誌『海事史研究』の発行 (年1回) / 総会 (年1回)・例会 (8月と総会開催月を除く年10回) など

